

人間文化研究機構国文学研究資料館

令和5（2023）年度第1回運営会議 議事要旨

- 【日 時】 令和5（2023）年6月30日（金） 15：30～17：10
- 【場 所】 オンライン会議「Zoom」
- 【出席者】 安藤、入口（議長）、海野、大隅、大谷、大山、落合、川平、神作、倉員、齋藤、佐々木（副議長）、高埜、張、西村、ヒューイ、藤實、山本（和）、山本（聡）の各委員
- 【欠席者】 久富木原、高田、山地の各委員
- 【陪席者】 渡部館長、島崎管理部長、笠原総務課長、姫野財務課長、片岡学術情報課長、その他関係職員

議事に先立ち、渡部館長から挨拶があった。

続いて、笠原総務課長から、会議の定足数について、運営会議委員22名のうち、外国出張による欠席者は0名で、過半数12名以上となり、19名出席しているため定足数を満たしている旨の報告があった。

【前回（令和5（2023）年2月8日）運営会議議事要旨確認】

原案のとおり了承された。

【報告事項】

1 研究教育職員等の人事について （資料なし）

入口議長から、議事の進行上、まず報告事項1を取扱う旨説明があった。

渡部館長から、研究教育職員及び特任研究員の人事について、令和6（2024）年1月1日付けで人文情報学を専門とする准教授1名、令和6（2024）年4月1日付けで日本近代文学を専門とする准教授1名、国際連携を担当する助教1名、IRを担当する特任准教授1名、情報学又は人文情報学を専門とする特任准教授又は特任助教若干名の5件の採用を計画している旨報告があった。

高埜委員から、常勤教員の3件に関し、発議した経緯及びアーカイブズ系の人事について質問があり、渡部館長から、館内で意見聴取を行い慣例に従って報告事項として人事を説明したこと、当館としては、アーカイブズ系の人事というような考え方や退職した教員の分野を補充するという考え方はなく、これまでと同様に優先順位等を踏まえて総合的に判断したことの説明があった。

続いて、令和5（2023）年4月1日付けで着任した研究教育職員及び特任研究員の3名から挨拶があった。

【審議事項】

1 人事協議会委員の選出について （資料1）

入口議長から資料1に基づき、人事協議会委員について、館外委員から倉員委員、佐々木委員、館内委員から神作委員、海野委員、藤實委員を選出したい旨説明があり、審議の結果、了承された。

【報告事項】

2 大規模学術フロンティア促進事業における事業移行評価について (資料2)

神作委員から、資料2に基づき、現行計画「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」及び後継計画「データ駆動による課題解決型人文学の創成」について、学術研究の大型プロジェクトに関する作業部会による事業移行評価の現地調査及びヒアリングが、令和5(2023)年5月30日に実施された旨報告があった。

3 未来の学術振興構想及びロードマップ2023について (資料3)

渡部館長から、資料3に基づき、「ロードマップ2023」について、「国文学研究資料館古典資料学際共創プロジェクトセンター(仮称)設置計画」を応募する準備を進めていたが、人間文化研究機構長及び理事との協議において、機構内他機関との調整や設置場所などの点で示唆があり、熟慮の結果、将来を見据えた機構内の連携協力体制を構築していくことを第一と考え、今回の応募は見送ることとした旨報告があった。

4 第4期中期目標・中期計画における意欲的な評価指標の指定について (資料4)

神作委員から、資料4に基づき、第4期中期目標・中期計画における意欲的な評価指標の指定について、人間文化研究機構を含めた各大学共同利用機関法人でそれぞれ1件が採択されたこと、また、本件については、現在再申請を受け付けているが、当館を含めて人間文化研究機構からは再申請を行わないこととなった旨報告があった。

大隅委員から、おそらく、評価をする側としては、KPI(重要業績評価指標)となりうる数字を示し、それが一定の期間で達成されたということが客観的に確認できるものを期待したと思われるが、国文研にうまく合致するものがなかったとしても、分野の特性などがあるため仕方のないことではないかとの意見があった。

5 共同研究等について (資料5)

神作委員から、資料5に基づき、今年度から新たな区分として後継計画ともかかわるデータ駆動型研究を3件開始すること、及び継続して実施する区分である基幹研究・特定研究、人間文化研究機構基幹研究プロジェクト・共創先導プロジェクトについて報告があった。

6 令和4年度事業報告について (資料6)

学術資料事業部の事業について、海野委員から、コロナ禍における人数制限・事前予約制で開室日・開館時間を変更した閲覧室の運用、日本文学関連資料及びアーカイブズの調査・収集、近代文献WG・古典文学テキストWGによる検討などの報告があった。

国際連携部の事業について、藤實委員から、国際日本文学研究集会の開催等の次世代育成に関する取組、海外の学術会議における企画への参加等の国際ネットワークの充実に関する取組、日本古典籍研究国際コンソーシアム室の活動などの報告があった。

資源活用連携部の事業について、西村委員から、創立50周年記念展示「こくぶんけん〈推し〉の一冊」、電子展示室「書物で見る 日本古典文学史」の公開等の展示に関する取組、創立50周年記念式典及び記念講演会等の講座・講演会に関する取組などの報告があった。

電子情報部の事業について、落合委員から、日本古典籍総合目録データベースと新日本古典籍総合データベースとを統合し、令和5(2023)年3月1日から国書データベースとして公開したことなどの報告があった。

7 大学院教育について (資料7)

齋藤委員から、資料7に基づき、大学院教育について、特別共同利用研究員及び総合研究大学院大学日本文学研究コースの学生等の受入状況などの報告があった。

8 その他

(1) 大学共同利用研究教育アライアンス (IU-REAL) 異分野融合・新分野創出プログラム

2023年度共同研究等の審査結果について

(資料8)

神作委員から、資料8に基づき、当館からは1件応募したが不採択となったこと、及び採択された課題一覧について報告があった。

(2) 本部寄附金の受入れ及び当館への移管について

(資料9)

渡部館長から、資料9に基づき、匿名の寄附者から、機構本部を通じて当館への寄附の申出があり、寄附金を受け入れたことについて報告があった。

(3) 令和5年度の催し物について

(資料10)

入口議長から、資料10に基づき、令和5(2023)年度催し物について報告があった。

【当館へのご意見等】

高埜委員から、重要な裁判記録の廃棄事案が発生し大きな問題になるなど、公文書等の適正な管理を支え保存と利用を確かなものとする担い手であるアーキビストの重要性の認識が高まっており、国文研として、アーキビスト養成に大きな役割を担っているアーカイブズ・カレッジを今後も十全に機能させ社会的責任を果たしていただきたいとの意見があった。

渡部館長から、今後もアーカイブズ・カレッジを機能させ社会的責任を果たしていきたいと考えている旨説明があった。

佐々木委員から、データベースの整理・統合により公開停止やリポジトリを通じた保存・公開となったデータベースに関する利用者からの反応が何かあるのかについて質問があった。

海野委員から、利用者からの反応について取りまとめているものはないが、国書データベースにリポジトリを通じた保存・公開となったデータベースの一部を統合する取組を進めている旨説明があった。

神作委員から、リポジトリに保存しているデータはコミュニティや研究者個人で活用していただきたいと考えており、また、研究領域の細分化などによるデータベースの増加に伴いリプレイス費用が増加しており苦渋の選択であることをご理解いただきたい旨説明があった。

山本(和)委員から、今回のデータベースの整理・統合は、今後もデータを活かしていくためであること、許諾関係などで当館では対応できない点もあるが、リポジトリに保管しているデータを自由に活用していただきたい旨説明があった。

入口議長から、データベースの維持管理や更なる発展のための予算獲得には、データベースが必要であるというコミュニティからの要望(声)が重要であるため、是非、学会等から声を上げてご支援をいただきたい旨説明があった。

以上